

次のすこやかさへ、一步一步



当社株式の非公開化・株式公開買付けへの 賛同意見表明について

2026年2月25日
養命酒製造株式会社

公開買付けの概要

項目	概要
公開買付者	株式会社レノ
公開買付期間（予定）	2026年2月25日（水）から2026年4月8日（水）（30営業日）
買付価格	1株当たり 4,050円
買付予定株数の下限	下限：1,903,900株（所有割合：13.67%）
買付予定株数の上限	設定せず
買付代金の総額	37,593,140,850円
応募契約株数（合計）	2,040,719株（所有割合：14.66%）
公開買付代理人	三田証券株式会社
応募契約	三菱UFJ信託銀行株式会社が保有する当社株式675,000株（所有割合：4.85%） 株式会社八十二長野銀行が保有する当社株式650,200株（所有割合：4.67%） トーア再保険株式会社が保有する当社株式548,000株（所有割合：3.94%） 塩澤太郎氏が保有する当社株式163,819株（所有割合：1.18%） 野村幸弘氏が保有する当社株式3,700株（所有割合：0.03%）
不応募契約	湯沢株式会社が保有する当社株式4,641,500株（所有割合：33.34%）

1. 目的・背景	p. 4
2. 株式会社ツムラについて	p. 5
3. 当社とツムラの事業シナジー	p. 6
4. シナジーの具体的なイメージ	p. 7
5. 当社の資本関係について	p. 8
6. 今後のスケジュール	p. 9

1. 目的・背景

当社の企業価値向上に向けて、当社は株式会社ツムラを100%株主とする

背景

- 当社は、現在の中期経営計画（2022年4月～2027年3月）に基づき、収益性を確保しつつ成長投資を行い、新たな企業価値の創造に取り組んでまいりました。
- しかしながら、経営環境の大きな変化により、物価上昇による消費行動への影響等による国内「養命酒」の販売不振、通信販売の競争激化、店舗展開にあたっての人材確保難等による「くらすわ」関連事業拡大の遅れ、最終年度を見据えたM&Aの実現可能性の低下等、中期経営計画策定時に想定した前提条件が大きく変化しています。
- このような事業環境の下、今後当社が持続的な成長及び企業価値の拡大を実現するためには、「養命酒」を中心とした製品の販売力強化を通じた再びの成長トレンドの実現や、くらすわ関連事業の抜本的な改善策の遂行が求められています。



上記のような背景の下、当社が持続的な成長及び企業価値の拡大を実現するため、当社株式の非公開化など一連の取引を通じて、最終的にツムラを100%株主とする企業グループとなることが最善と判断いたしました。

2. 株式会社ツムラについて

- 創業132年を迎える株式会社ツムラは、国内の医療用漢方製剤市場シェア84.6%を占め、医療用漢方製剤129処方、国内73拠点及びアメリカ・中国・ラオスに海外ネットワークを有し、売上高1,810億円のリーディングカンパニーとして成長を続けています。
- また、長期経営ビジョン「TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031」を掲げ、国内の医療用漢方製剤、OTC・ヘルスケア製品、中国事業の更なる成長・拡大に取り組んでいます。

概要

自然と健康を科学する



ツムラのシンボルマークは、経営理念である「自然と健康を科学する」姿勢を、化学構造式をかたどった形状で表現したものです。

商号	株式会社ツムラ
本社	東京都港区赤坂2-17-11
代表者	代表取締役社長CEO 加藤 照和
資本金 (2025年3月31日現在)	301億4,200万円
売上高 (2025年3月)	1,810億9,300万円 (連結) 1,598億3,000万円 (単体)
上場取引所	東証プライム市場
従業員数 (2025年3月末)	4,272名 (連結)

事業概要

- 医療用漢方製剤、一般用漢方製剤・一般用医薬品（OTC医薬品を含む）の製造・販売
- 原料生薬の栽培・調達から研究・開発、品質管理・製造、流通まで一貫して対応



沿革

- 1893年 個人経営の津村順天堂を創立
- 1936年 株式会社津村順天堂を設立
婦人薬中将湯・バスクリン等の製造販売開始
- 1976年 医療用漢方製剤が健康保険採用、薬価収載
- 1980年 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1982年 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
- 1988年 株式会社ツムラへ商号変更
- 1993年 創業100周年
- 2022年 東証1部からプライム市場に移行



3. 当社とツムラの事業シナジー

- ツムラと同一の企業グループとなることで、当社の企業価値向上に資すると判断した点は以下のとおりです。

想定される事業シナジー

1 養命酒ブランドの更なる進化

ツムラが培ってきたノウハウ・販売ネットワークや知見を活用した支援等を受けることで、マーケティング手法の改善や国内での新規販路開拓が可能になるなど、事業特性・強みの相乗効果による養命酒ブランドの更なる進化を実現できる

2 生薬・漢方を基点とした研究開発や新商品開発

ツムラの研究開発部門との連携を通じて、改めて基礎研究領域に注力することが可能となり、ツムラと当社の強みを活かした生薬、漢方を起点とした研究開発や新商品開発を実現できる

3 コスト構造・資本効率の改善

ツムラとの共同運営により、原材料の共同購買によるスケールメリット及び交渉力強化や原材料の統合調達による仕入債務支払日数の延長等、コスト低減・資本効率化が可能になる

＋ 株式非公開化による上場維持コストの削減効果

ツムラを含む複数の候補先からの提案を受けておりましたが、最も企業価値向上にも資すると評価できることから、ツムラが事業のベストパートナーであると選定しました。

4. シナジーの具体的なイメージ

- 当社とツムラの事業シナジーの現時点での具体的なイメージは、以下のとおりです。

1. 養命酒ブランドの更なる進化



- エビデンスを活かした価値訴求型プロモーション体制の確立による商品価値訴求方法の改善
- ツムラの医薬系代理店流通ネットワークを活用した専門調剤への配荷拡大・顧客接点の増加を通じた国内調剤薬局チャネル拡大
- ツムラの中国などにおける現地ネットワークの相互活用による海外における適切な販売戦略の再構築

2. 生薬・漢方を基点とした研究開発や新商品開発

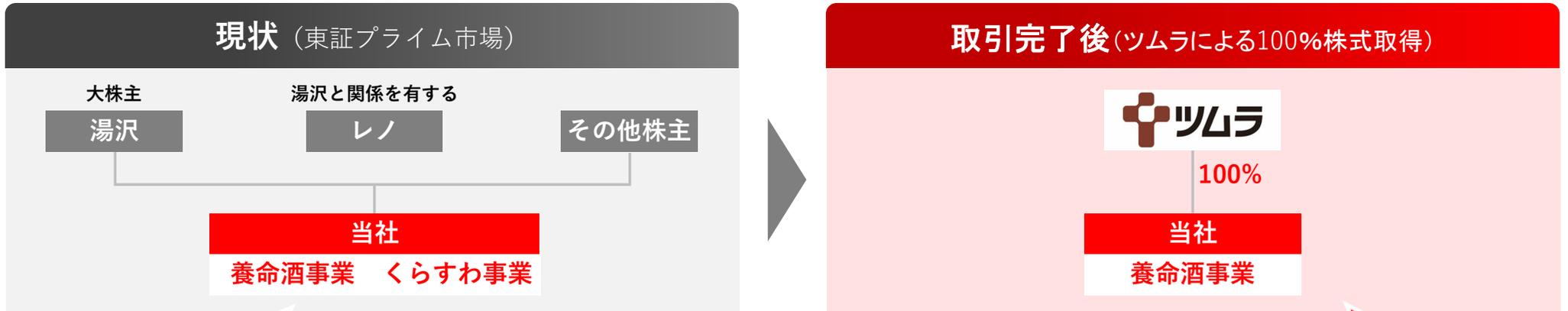


- ツムラの研究開発部門との人材交流や知見共有による製剤技術の導入や研究開発力の発展
- 商品開発センター（旧中央研究所）のリソース活用、基礎研究から新商品開発まで、一貫したR&D体制を構築

5. 当社の資本関係について

- 現在、東証プライム市場に上場する当社は、以下のプロセスを経て、最終的に100%子会社としてツムラグループに加わる予定。

非公開化及び一連の取引完了前後の資本関係



取引の流れ



- レノが当社株式の公開買付けを行い、大株主の湯沢とレノのみが株主となるスクイーズアウトを実施。
 - スクイーズアウト後、レノから湯沢に対して当社株式を譲渡し、湯沢が当社の100%株式を取得。
 - 当社の保有する非事業性資産について、湯沢に対して現物配当等により譲渡。
 - その後、湯沢が保有する当社全株式をツムラへ譲渡。
- くらすわ事業については、ツムラによる当社株式取得までに、同事業の運営に関心を示す買手候補との間で、譲渡範囲を含め今後事業譲渡について協議していく予定
- 事業譲渡に至らなかった場合、同事業は縮小・撤退を行う予定
- 酒類・食品の取り扱いについては、商品を絞り込み、生薬配合主要商品に経営資源を集中する方針を基本とし、詳細は今後協議予定

6. 今後のスケジュール

- 現時点で決定または想定される非公開化及び一連の取引に関わるスケジュールは、以下のとおりです。
- 未定の事項については、適宜決定し次第、公表する予定です。

日付	内容
2026年2月24日（火）	当社取締役会において、本公開買付けに賛同の意見を表明し、賛同の意見を表明するとともに、本公開買付けに応募するか否かについては当社の株主の皆様のご判断に委ねる旨の決議
2月25日（水）	本公開買付けの開始（30営業日後の4月8日（水）まで）
4月8日（水）	本公開買付けの終了
4月15日（水）以降	本公開買付けの決済
6月上旬	当社臨時株主総会の開催（株式併合に関する議案等によりスクイズアウト）
6月下旬月頃	当社株式の上場廃止
7~8月頃	レノから湯沢への株式譲渡 ツムラへの株式譲渡により当社がツムラ100%子会社としてグループイン

*上記のスケジュールはあくまで現時点の想定であり、今後変動する可能性があります。

次のすこやかさへ、一步一步



Yomeishu